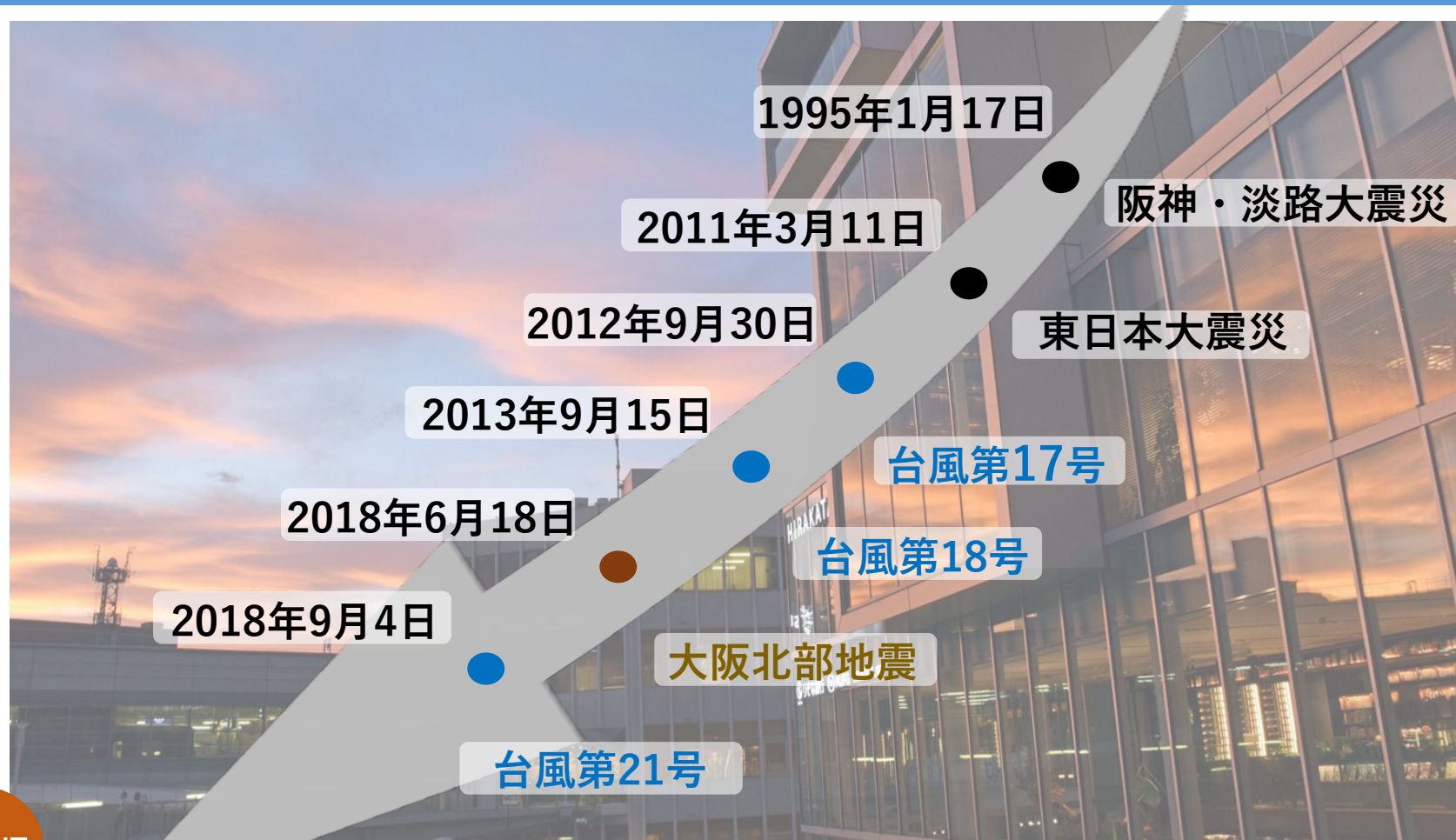


取組の経緯（枚方市等で起きた主な災害）



POINT

人的・物的被害をもたらす災害が本市でも**頻発化**

大阪北部地震による被害状況

人的被害

死者	0名
重傷者	0名
軽傷者	23名

(2018年11月1日時点)

住家被害

全壊	1棟
大規模半壊・半壊	12棟
一部損壊	7,056棟
計	7,069棟

(2018年11月1日時点)

最大避難者数

39避難所	273人
-------	------

(2018年6月20日午前8時時点)



POINT

枚方市で観測史上初の
“震度6弱”を観測

震度1以上の余震は50回を記録



POINT

市内各地で擁壁の崩れなどが発生

台風第21号による被害状況

人的被害

死者	0名
重傷者	0名
軽傷者	11名

(2018年11月1日時点)

住家被害

全壊	5棟
大規模半壊・半壊	8棟
一部損壊	5,452棟
計	5,465棟

(2018年11月1日時点)

最大避難者数

21避難所	236人
-------	------

(2018年9月4日午後4時時点)



POINT

観測史上初となる
最大瞬間風速**40.2m/s**



POINT

電線切断による**停電**が
市内相当箇所が発生

台風第21号による被害状況

人的被害

死者	0名
重傷者	0名
軽傷者	11名

(2018年11月1日時点)

住家被害

全壊	5棟
大規模半壊・半壊	8棟
一部損壊	5,452棟
計	5,465棟

(2018年11月1日時点)

最大避難者数

21避難所	236人
-------	------

(2018年9月4日午後4時時点)



POINT

観測史上初となる
最大瞬間風速**40.2m/s**



POINT

電線切断による**停電**が
市内相当箇所が発生

モデル事業を実施した自治会の想い

一人一人に向き合い、顔が見えた安全・安心づくりに向けた取組みの一つとして、自治会員による安否確認・避難支援の取組みを個別避難計画として計画化。地区防災計画も策定している自治会であることから、訓練で両計画の連動について実効性を確認している。

【広報誌 3月号に自治会の防災に対する想いを掲載】

地域コミュニティ



西船橋自治会
小野田 里美さん・弘さん

地域に合わせた防災活動が活発

一人一人に向き合い、顔が見えた安全・安心づくりを
近所で助け合える関係づくりを目指して令和2年に地域で防災委員会を立ち上げました。災害直後に助け合えるのは近くの住民です。大規模災害にもなれば、消防隊や行政の支援がすぐに届かないかもしれません。そこまで想定して、命や暮らしを守る事前の準備を進めています。自ら避難することが困難な人の把握、耳が遠いから教えに行った方がよいなどの対応もより細かく対応できるのが地域の力だと思えます。私たちの自治会では、災害が起こった時でも素早く動けるよう令和3年に地区防災計画を策定しました。地域の実情を踏まえて、一人一人に向き合い、顔が見えた安全・安心づくりが目標です。

安否確認・避難支援の計画化

自治会長

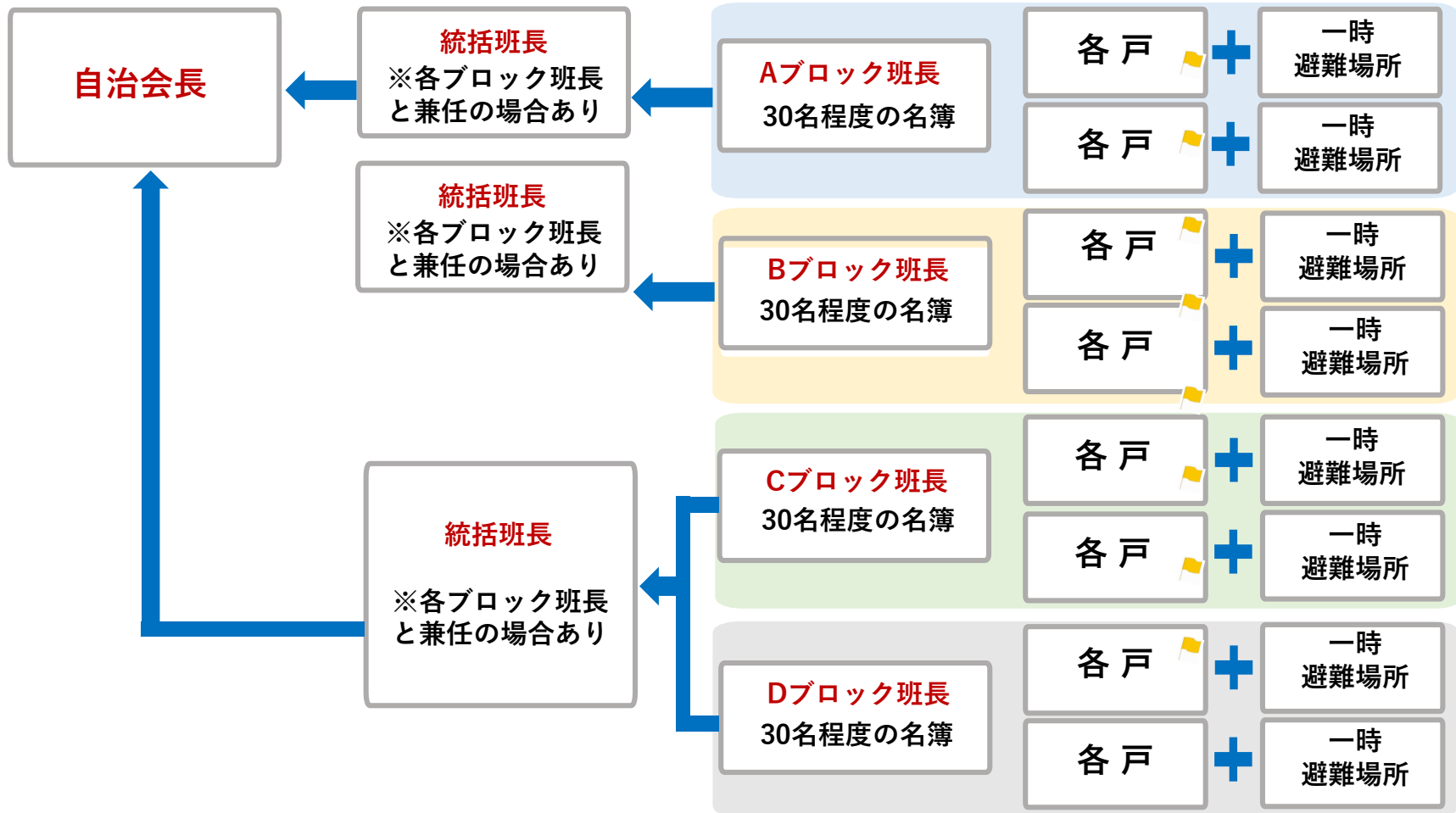
自治会長は統括班長からの報告を受け、安否確認状況を集約する。

自治会 (支援者)

ブロック班長は「黄色い小旗」掲出数及び「避難者数」を統括班長に報告。統括班長は自治会長に最終報告を行う。

自治会員 (要支援者)

各戸で黄色い小旗を掲出後、一時避難場所に避難する。



安否確認・避難支援の計画化

一時避難場所

一時避難場所に参集した要支援者と支援者が第1次避難所に同行避難を行う。

要支援者



支援者

要支援者



支援者

要支援者



支援者

要支援者



支援者

第1次避難所

第1次避難所に避難した要支援者のうち、福祉避難所への避難が必要な場合は支援者と同行避難を行う。

要支援者



支援者

要支援者



支援者

要支援者

支援者

要支援者

支援者

福祉避難施設

自治会と覚書を締結した福祉避難施設は、要支援者と支援者(1名)を受入する。

要支援者

支援者

要支援者

支援者

POINT

従前から自治会で安否確認・避難支援の活動を実施しており、この取組を活用してモデル事業を実施した。

課題

従前からの地域の取組を個別避難計画とする際に課題になっていたこと

1 支援者と要支援者のマッチング

- ・災害時に誰が被災するのか分からない状況であらかじめ「1対1」の関係を決めておくことが困難。

》支援者を個人ではなく「団体」とすることで災害時、可能な方が支援する体制に。

2 個別避難計画(様式)の策定

- ・細かい文字が読めない。漢字が多く書く気が起きない。(後回しになる)

》同様の課題を感じていた徳島県と小松島市の取組を参考に様式を策定。

個別避難計画策定に向けた今後の取組

本人・家族作成プラン

内容

(仮)家具転倒防止に係る補助事業の案内に併せて計画の作成を依頼。

対象者

同意者・不同意者（平時提供）

地域作成プラン

内容

モデル事業で得た成果を踏まえ、主に自治会レベルでの計画作成を実施。

対象者

同意者（平時提供）

個別避難計画策定に向けた今後の取組

福祉専門職作成プラン

内容（方向性）

優先度の高い要支援者について、福祉専門職と連携し作成を予定。

今年度の取組

福祉専門職との連携に向けた土壌づくりとして、災害リスクに関する勉強会を実施、109名が参加。市内9事業者連絡会の代表者が災害時における利用者の避難支援等について発表。

各サービス事業所・グループホーム・居宅介護支援事業所 各位
 令和5年1月1日
 【主催】
 枚方市介護事業者研究会
 【共催】
 枚方市

※枚方市介護事業者研究会は、枚方市地域包括支援センター・
 方市訪問介護事業者協会・枚方市デイサービス連絡協議会・枚方
 市・枚方市訪問看護ステーション連絡会・グループホーム連絡協議会
 枚方市の事業者や介護・医療従事者支援を目的に設立された

枚方市の災害について ～BCP作成～

平素は本会にご協力いただきありがとうございます。
 BCP作成義務化の期限が迫る中、どのように作成したら良いか分から
 ない、枚方市危機管理部にご協力いただき、BCP作成に欠かせない
 事項となりました。どのような災害を予測し、各事業者がどのような対応を
 するか？

開催日：令和5年
 開催時間：18:30
 開催場所：たまゆらイベントホ
 定員：160名（先着順）
 内容：第一部 介護・福
 第二部 各連絡
 『各事
 参加者を
 QRコード

防災ガイド 枚方市
 介護・福祉専門職に向けた

枚方市の災害リスク

令和5年（2023年）2月7日（火）

各事業所代表者による
 シンポジウム
 ～各事業所の課題や連携について～

【参加事業者】 枚方市訪問看護ステーション連絡会、枚方市通所訪問リハ連絡協議会、福祉用具貸与事業者連絡協議会、枚方市訪問介護事業者連絡会、枚方市デイサービス連絡協議会、枚方市介護支援専門員連絡協議会、枚方市地域包括支援センター、枚方市グループホーム連絡協議会、枚方市高齢者住まい連絡協議会（設立準備会）

ポイント

個別避難計画の作成にあたって
大切だと感じたこと

1 既存の活動を広げて いく

- ・今回モデル事業で実施した地域のように従前からの取組がある地域では、策定に繋がりやすい。（計画の必要性を感じている。）

2 取組やすい活動から 始める

- ・コミュニティタイムラインの策定にあたって地域の災害リスクをまち歩きによって把握する取組を行った複数の地域から「一緒に避難する必要がある人も把握しよう。」という声があがった。